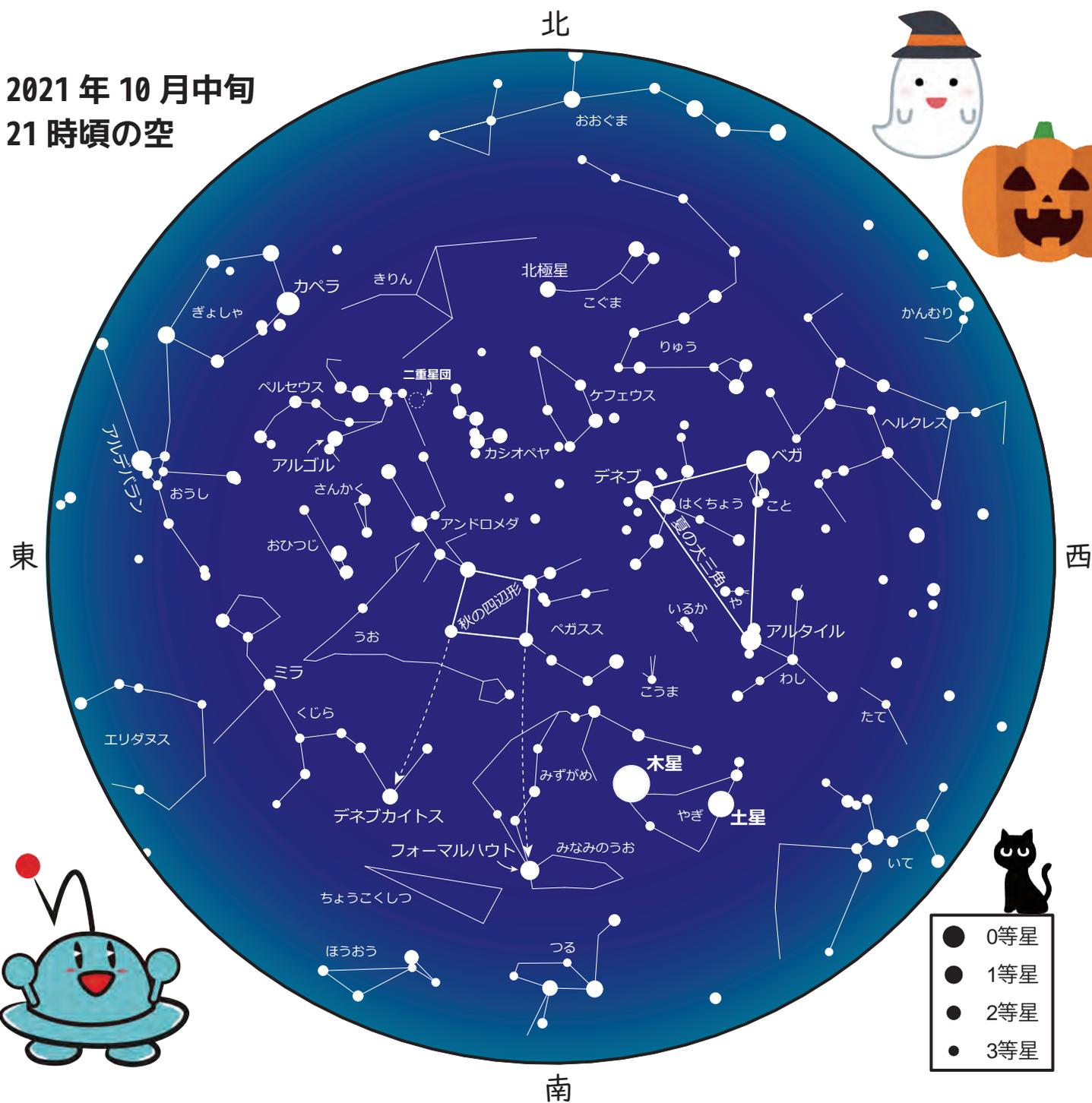


# 10月の星空案内

2021年10月中旬  
21時頃の空



10月は夜空を見上げれば、空高い位置に**秋の四辺形**と呼ばれる星の並びが見えます。これはペガサス座の胴体部分にあたり、秋の四辺形を利用すれば、**フォーマルハウト**（みなみのおう座）や**デネブカイトス**（くじら座）と呼ばれる秋の星々を探ることができます。このうちフォーマルハウトは秋の星座の中では唯一の1等星で、日本では「秋のひとつ星」と呼ぶこともあります。ただ、今年はフォーマルハウトの西側に**木星**（約-2.6等）と**土星**（約0.5等）が位置するため、例年よりも賑やかな秋の夜空に感じるのではないのでしょうか。一方で北よりの空には小学4年生も学習する**カシオペヤ座**が見え、アルファベットのMのような形をした星の並びが目をはくことでしょう。

天体観望会のご予約はネットかお電話にて【毎週土曜日開催 / 19時～, 20時～, 21時～】

阿南市科学センター

電話 0884-42-1600

<http://ananscience.jp/science/>

# 10月の月の満ち欠けと惑星について



新月  
6日



上弦  
13日



満月  
20日



下弦  
29日

## 天体観望会で 月が見えるおすすめ日時は？



10/16(土) : 全ての回で観察可



10/23(土) : 21時の回がお勧め

水星 : 10/25 西方最大離角。明け方東のごく低空で見える。【-0.5等】

金星 : 日没後、宵の明星として西の低空で見える【約-4.3等】。

火星 : 太陽に近く観察は難しい。

木星 : 前半夜から深夜頃まで見える。【約-2.6等】

土星 : 夜半前から深夜頃まで見える。【約0.5等】

※各惑星の等級は中旬頃の明るさ（水星のみ10/25頃の明るさ）。



10月の観望会は19時と20時の  
回で木星・土星が見られるよ！

# 今月のおすすめの観察対象や話題

## 【ペルセウス座の二重星団 h-χ】

ペルセウス座で輝く**二重星団**とは NGC869 と NGC884 という二つの散開星団のことを指します。空の暗いところであれば、肉眼では淡く白っぽい塊として見え、17世紀にドイツのヨハン・バイエルによって作られた星図「**ウラノメトリア**」にも記載されています。この星図は星座ごとにギリシャ文字やローマ字を使って星を命名したことで有名で、例えばこの座α星といえば、ベガのことを指します。バイエルの命名法によって、ペルセウス座の二重星団にも符号がついており、NGC869にはローマ字の“h(エイチ)」、NGC884には“χ(カイ)”というギリシャ文字が与えられています。そのため、天文ファンの間ではこの二重星団を「**エイチ・カイ**」と呼ぶことも少なくありません。なお7~10倍程度の双眼鏡を使えば、二つの星団を一度に楽しむことができます。当館の観望会でも双眼鏡を使ってご案内しております。

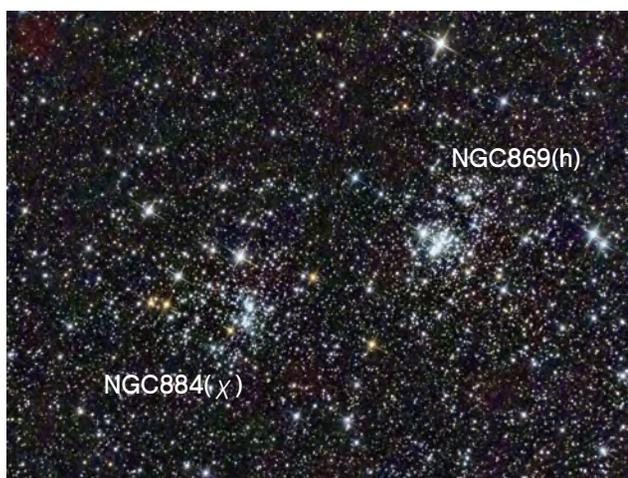


図1: ペルセウス座の二重星団(h-χ)

(D=13cm, F4.2 + ESO kiss X7i, by K.Imamura)

## 【悪魔の星アルゴルを見てみよう！】

ペルセウス座で輝く「悪魔」の異名を持つ**アルゴル**は、明るさが変わる星（**変光星**）として有名な天体です。普段は2.1等という明るさですが、ときどき3.4等まで暗くなります。この星は二つの星が周りあう連星として知られ（軌道周期約2.87日）、一方の星がもう片方の星を隠す「**食**（しょく）」という現象で明るさが変化します。ひとたび食が起ると約5時間かけて暗くなり、また5時間くらいかけて元の明るさに戻ります。一晩中観察するのは長丁場になり大変なので、はじめのうちは前日などに元の明るさを見て覚えておくと良いでしょう。今年10~11月で観察しやすい食の日時（予報）は以下のとおりです。

|              |              |
|--------------|--------------|
| 10月17日 22:47 | 11月12日 18:06 |
| 10月20日 19:36 | 11月29日 23:00 |
| 11月7日 00:29  |              |

※食のデータは日本変光星研究会より

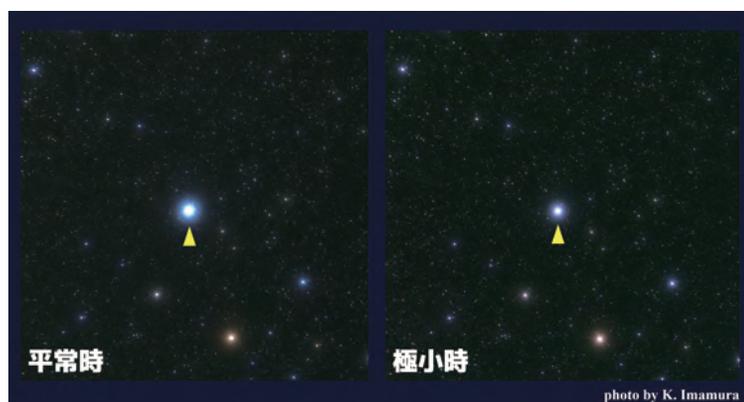


図2: アルゴルの明るさの変化の様子（平常時と極小時）

photo by K. Imamura